

2023年9月25日

読んでもらえる『おたより』を！

～ おばあちゃんのお話から ～

お孫さんが園に通っているというあるおばあちゃんからこんな話を聞きました。

孫がお世話になってます。家に帰って来ると、「きょうは〇〇〇をして、すごいおもしろかった。」とか、「〇〇ちゃんといっしょにあそんだ。」とか、楽しそうにいっぱい話してくれるんですよ。ちょっと前までオムツを替えてた子が、どんどん大きくなっていったのがすごく嬉しいです。

それから、『園だより』も楽しみにしています。あれ読むと、こんな取組みの中で(孫が)伸びていくやなあってわかるから。けどね、最近私老眼になってきたみたいでね。『おたより』の字がちよっと見えにくくなってきたんですよ。そろそろメガネ(老眼鏡)買わなと思っていますねん。(笑)

『園だより』や『学校だより』は、校園の取組みやさまざまな「お知らせ」を保護者さんをはじめ、地域の方々に発信するものです。こうした媒体は、「読んでもらってなんぼ」ではないでしょうか。このおばあちゃんの話聞いて、私はいくつかの『おたより』を読み直してみました。すると、「これは、文字ばかりやなあ。」というものもありました。一方で、上手に写真やイラストを工夫してあるものも。「これはすっきりしていて、見やすい!」と。また、『おたより』はひと月に一回の発行ですので、その間の情報を精一杯載せようと、びっしりと小さな文字が並んでるものもあります。「これでは読んでもらえんわなあ。」と思いました。校園の「伝えたい思い」と、「読んでもらう」という間には、大きな落差があるのではないのでしょうか。私、「授業といっしょやなあ」と思いました。あれもこれもと盛りだくさんは、結局伝わらないんです。

これを機会に、あなたの校園の『おたより』を見直してみませんか。(「学年だより」や「学級通信」も同じだと思います。)